

■ 滋賀県立大学 国際教育センター セミナー ■

● 演題

祇園祭と山鉾行事の諸相

● 講師

財団法人祇園祭山鉾連合会 理事長

深見 茂氏

● 日時：2008年12月9日(火) 10時40分～12時10分

● 場所：滋賀県立大学 A1-301 教室

● 対象：学生・教職員および一般(参加無料)

そもそも祭を分析する方法には大きくわけて、祭の持つ妖艶な魅力を考察し、祭が人間の存在と心にとってどんな意味があるのかを問うところから入って行く道と、祭の構造を観察し、それが機能する仕組みを分析して、祭が人間の生活と精神にとってどんな位置を占めているかを問うところから入って行く道とがあると思います。人類学的宗教学的アプローチと、社会学的民俗学的アプローチと申してもいいでしょう。また、祭に「捉えられた」精神と、祭を「捉えようとする」精神とも表現できましょう。両者は本来、不可分離なものです。私も幼少年時代から祇園祭に「捉えられて」生き、いま、祇園祭を「捉えよう」と努めているわけです。

このような立場から、私の心が「捉えられた」祭である、この京都の祇園祭を、次の諸項目順に「捉えて」行き、国際教育センターのセミナーとしての意味も考慮しつつ、祇園祭の山鉾行事を執行することの現代的意義を考えてみたいと思います。

- I. 起源と縁起、II. 歴史、III. 山鉾懸装品
- IV. 山鉾行事の運営主体の組織「町中」(江戸時代から明治31年頃まで)
- V. 「町中」の衰退と山鉾町の窮状(明治31年頃より敗戦前後まで)
- VI. 祇園祭山鉾行事の復興・維持への取り組みについて(大正・昭和・戦後以降)
- VII. 結び

講師紹介

1934年京都に生まれる。1996年より財団法人祇園祭山鉾連合会理事長を務める。祇園祭の顔としてよく知られているばかりでなく、ドイツ文学研究者としても著名であり、大阪市立大学、滋賀県立大学、各教授として、これまで文学研究や研究者育成において多大な功績を残してこられた。本学在職中には、国際教育センター長も務められている。1958年大阪大学大学院文学研究科修士課程(独文学専攻)修了。1994年大阪市立大学文学博士。大阪市立大学、滋賀県立大学、各名誉教授。

問い合わせ先

滋賀県立大学 国際教育センター

TEL:0749-28-8251 FAX:0749-28-8480

E-mail:ice-hikae@office.usp.ac.jp